

第3回 阿波おどり運営協議会会議 議事録

開催日時 平成30年9月27日(木) 午後3時～

開催場所 徳島市中央公民館3階 302会議室

出席者 委員22名(内代理5名、欠席2名) 事務局8名

- 1 開会
- 2 委員交代、代理出席者及び欠席者紹介
- 3 議題(1)阿波おどりの総括について～(5)阿波おどり事業の検証方法について

【事務局】

資料1阿波おどりの総括について～資料5阿波おどり事業の検証方法について説明

【A委員】

運営協議会は5月28日以来の開催であり、今年の阿波おどりは6月中旬以降から混迷していったと思うが、実行委員会だけが開かれていた。今年の阿波おどりの検証は別に有識者会議で行うとあるが、実行委員会と併せて実施されない運営協議会はどのような位置づけになるのか。

【事務局】

運営協議会については、実行委員会に意見をいただく諮問機関として考えていただきたい。

運営協議会は4、5月に開催しており、その内容については事業計画の策定にあたり、平成30年度の阿波おどりをどのように開催するのか、開催の骨格を決める事業計画について意見をいただいた。それ以降実行委員会については、運営協議会で意見をいただいた事業計画に基づいて、具体的な当日の人員配置等の議論を行っていたため、運営協議会は開催しなかった。

【A委員】

事態は混乱していったことについて運営協議会の意見は必要がない、そのような組織なのか。

【事務局】

実行委員会に対して、意見をいただく非常に重要な組織であると考えている。

骨格となる事業計画について、しっかり議論しご意見をいただき、その事業計画に基づき人員配置等の細かい運営方法を決定する段階になったため運営協議会を開催しなかった。

【A 委員】

今年の阿波おどりの混乱の最大のきっかけは6月14日に総おどりの中止を阿波おどり振興協会（以下「振興協会」という。）に事前に相談することなく一方的に決定したことだが、このことについて見解を伺いたい。総おどり中止の代替策が2部の最後30分に4つの有料演舞場に30余りの有名連を割り振って出演してもらう新しい演出である。経営者であれば、業績の好調の部分のパワーを削って不採算部分に回すことはまず100%取らない。新しい演出の方が全体のチケット販売が伸びると思った根拠、試算があったか伺いたい。

【事務局】

22時以降に有名連のみが踊り込む演出は、6月初旬の実行委員会で決定をした。6月14日の産業交通委員会の中で話が出る可能性があったため、6月13日の前日に22時以降の変更を振興協会の各連に対して電話で連絡をしている。結果として、チケット販売率が落ちており、その結果を真摯に受け止める必要はあると考えている。

6月初旬に考えていた、南内町で行われていた総おどりについては南内町だけの演出であり、その他演舞場で有名連、振興協会の踊りを見ていただくことがチケットを同じ料金で購入して来場される観光客に楽しんでいただけたらと思い22時以降の有名連が踊り込む演出を考えた。

【A 委員】

新しい演出の方がチケット販売状況の全体が伸びるという試算をしたのか。

【事務局】

具体的にどのように試算するかは難しい。総おどりをやっている南内町演舞場はチケット販売率が高いことは認識をしていた。一方で他の演舞場はかなりチケット販売率が低く、特に第2部販売率が低いということで、底上げにならないかと考えた。22時以降、南内町演舞場では振興協会の連が、努力もありかなり盛り上がっていたが、一方で南内町以外の3つの演舞場について、2部のチケット販売率が低いところもあり振興協会にも協力いただき、すべての演舞場で等しく有名連を見ていただけたらということと考えた。

【A 委員】

インターネットで検索した範囲では実行委員会の議事録が、第3回以降HP上に公開されていない。総おどり中止の決定に関して本当に実行委員会で議論が行われたのか、どの様にして結論が出たのかが知りたいのだが、議論の過程は公開されないのか。市長が透明性を第一に上げていたがどうなのか。遠藤市長によると、今回の様々な決定の判断を市長ではなく実行委員会の判断だと、某番組で話されているが、各委員は今年の阿波おどりの混乱のことや結果的にチケットの販売率が大幅に減少したことについて、自らの責任をどの様に考えているのかを伺いたい。まもなく収支がわかり、そのタイミングで実行委員会が開催されると思うが、その議論の過程を公開していただきたい

い。

【事務局】

会議録の公開については、第3回と第4回は実行委員会を非公開としているので、会議の概要だけを公表している。第7回はまだだが、第5回・第6回の議事録はHP上に公開している。

チケット販売率に関しては、結果としてかなり低迷したことを実行委員会委員一同、真摯に受け止めている。そのため、有識者会議を設置し、外部の目で検証していく必要がある。

【A 委員】

総おどりの中止決定に至るプロセスの議論は非公開ということか。

【事務局】

6月29日に第3回の実行委員会を開催している。総おどりの話が出たのが6月初旬である。実行委員会内で阿波おどりの多岐に渡る業務をこなさなければならないため、実行委員会の委員の役割分担を行った。その中で徳島市と徳島新聞社が企画運営部門を担うということで役割分担を決定した。6月初旬の段階でチケット販売率の話もあり、どのような方針で運営していくのか協議を行い、6月初旬に方針を決定し、委員全員に了解を得て決定した。これが22時以降の有名連のみ踊り込む演出方法を採用した経緯になる。非公開になっている実行委員会において総おどり中止の議論はしていない。

【A 委員】

総おどり中止は徳島市と徳島新聞社の2社で決定したという理解で良いか。

【事務局】

実行委員会の中で役割を決めており、多岐に渡る業務を行う中で企画運営を担う徳島新聞社と徳島市で協議を行ったが、2社だけで決定したわけではなく全委員の了承を得た上で22時以降の演出の決定を行った。

【A 委員】

実行委員会の各委員が今年の結果を受け止め総括をしていただきたい。自らの責任をどう考えているのか明らかにしてほしい。そのような形での公表はないのか。

【事務局】

資料1から資料5までが9月初旬に開催した第7回実行委員会の資料である。総括については、資料1が阿波おどりの総括であり、実行委員会で諮った上で各委員と共有できたと考えている。各委員の総意として今年、初めての運営体制で無事開催できたということで評価いただき、一方でA委員の意見のとおり問題、課題があったことは間違いないので真摯に受け止めしっかりと検証していく必要があると協議を行ったところである。

【A 委員】

遠藤市長が議会で来年は新しい元号の基で実施される阿波おどりはオール徳島で臨むと発言されていたが、一方で資料にあるように総おどりを強行した振興協会に対して何らかの処罰を考えているとされているが、事務局として、どのような手順でオール徳島を作り上げていくのか、振興協会にいつどの様にアプローチしていくのか。

【事務局】

今年の阿波おどりについては、弁護士や公認会計士また、おどり連の関係者が入った有識者会議を設置し、直接阿波おどりに携わっていない外部の目でも検証することを考えている。検証の対象として、人出の状況、チケット販売状況を踏まえて今年の演出方法等について検証していく必要があると考えている。

年明けの2月までには、平成31年度の阿波おどり事業計画を考えていく時期になるので、年内には有識者会議で検証した結果を踏まえて、実行委員会、運営協議会で新しい事業計画を議論していく機会を作りたいと考えている。

【A 委員】

有識者会議で結論が出るまでは年内は何も動かないのか。オール徳島を作り上げて取り組んでいくと市長が発言されたことに対してはどのように働きかけをしていくのか。

【事務局】

振興協会の関わり方も含め、今年の踊りの演出方法はどうかを検証していく必要がある。その過程で総おどりの開催について、振興協会と協議を行っていく必要があると考えている。今月中には振興協会の方と直接会って来年にむけての協議を依頼していく必要がある。

【B 委員】

踊り連には、徳島県阿波踊り協会（以下、「県協会」という。）、振興協会、阿波おどり保存協会（以下、「保存協会」という。）といろいろあるが、阿波おどりを楽しみたい、県外の皆様にも喜んでもらいたい、全国に発信したいという思いはみんな同じである。誰一人として阿波おどりを全国にネガティブなイメージを植え付けようと思っている人はいない。それなのに、このような事態になってしまった部分を考えると、かつて市役所前と紺屋町の演舞場に観客がたくさん入っていた時期に南内町には観客が少ないということで、振興協会が総おどりを始めて長年続いてきた。そういった振興協会の努力に対する敬意を評して話し合いすることができなかったのか。そういう部分で急ぎすぎたのではないか。

総おどりをしたい、前夜祭で踊りたいという踊り子たちは、普段仕事をして別々の生活をしている。そんな人たちが誇りを持って踊っているので、その気持ちは大切にしてあげたい。今後、話し合いをするのであれば、そういった点を含めてしっかりと協議していただきたい。これまでの状況はまったく徳島のためになっていない、なのに皆阿波おどりが大好きで誇りに思っている。この矛盾を解消していただきたい。

それと、運営協議会の役割がわからない。いろいろ意見があるにも関わらず開催されずに阿波おどりが終わった後に意見を聞かれても何も言いようがない。意見を言おうと思ったら今度は、新たに有識者会議が設置されるということだが、運営協議会はいつ招集されるのか、どのような役割を担うのか。そのあたりの考えを伺いたい。

【事務局】

運営協議会は、実行委員会に対しての諮問機関として意見をいただく組織である。明日、第1回の有識者会議を開催する予定である。その中で9月初旬の実行委員会、本日の運営協議会の意見は有識者会議に伝えて、有識者会議においても議論していただくように考えている。

開催時期に関しては、10月中旬、下旬に決算が出る予定なので、その後、実行委員会、運営協議会を開催したいと考えており、様々な意見をいただいた後に有識者会議で検証を行い、また、有識者会議の意見を踏まえ議論していただく流れで考えている。

【C委員】

今までは観光協会が仕切って各責任者、踊りの協会等が集まりこのような場で話し合っていた。徳島一の阿波おどりを成功させないといけないということで、機嫌取りのようなものがあつたと思うので、交渉する者と会計や経理等に二つに分けて赤字体質の解消を実行していただきたい。高知のよさこいは、踊る方がお金を払ってきている。阿波おどりの場合は、出演連にお金を支払っているため、上と下でだいぶギャップがある。新しく設置される有識者会議でこういった事も踏まえて赤字体質を消すことが遠藤市長の目標と思うので実行していただきたい。

最近、栈敷を踊る連数が減っていると思うので、人の流れをよくするような検討もしていただきたい。以前は学生連が途中で酒を飲みながら踊ったらマナーが悪いなど聞いたことはあるが、今は有名連がいろいろ演出をしているため、栈敷の通過に時間がかかっている。観客はそれがいいかもしれませんが、そのあたりも十分検討していただきたい。

【事務局】

踊りの演出方法から契約のあり方や費用負担のあり方等、全国的にも祭りの運営方法はいろいろある。運営の主体も違うので、全国的な状況を調査し、有識者会議で議論しやすい様な形で資料を用意できればと考えている。

踊り手の減少については、どこの祭りも後継者不足が言われているので、徳島市として、後継者の育成に取り組んでいかなければいけないと考えている。

委員の皆様から様々な意見をいただき、その旨を有識者会議に伝えて様々な角度から検討していきたいと考えている。

【D委員】

赤字を解消していくことは大事なことだと思うが、赤字解消のためだけで開催しているような踊りやお祭りを本当に見たいと思うだろうか。阿波おどりというのは踊る

阿呆や見る阿呆が主役になるようなお祭りであってほしいと思う。主催者が主役ではなく、踊ってくれる方、見に来てくれる方、そういう方が主役になるような運営をしていただきたい。

【E 委員】

12日から15日シャトルバスを運行し、皆様に協力いただき無事に事故もなく運送できた。

12日から15日の期間バスが128台出ており、乗車した観光客数は前年が46,914人、今年が34,477人で12,437人のマイナスであった。天候や曜日の関係もあったが、現場で見えていたが県外の乗用車の観光客が少なかったので、運営の方で対策を検討いただきたい。

予算的には実行委員会と8月の初旬に12,381,120円で契約したが、決算書にはシャトルバス経費とそれ以外の経費で記載していただかなければ、またバスが悪いと言われかねない。バス利用者数は34,477人で、小さいお子さまなどは無料なので収益は約320万円になり、シャトルバス代だけでも900万ぐらいの赤字が出ているため、そのあたりを含めて運営費を分けて決算書に記載いただきたい。

【F 委員】

いろいろな旅行会社から阿波おどりのツアーの件で阿波おどり後に意見があったので紹介したい。例年に比べてチケットの販売開始が1ヶ月程遅く、かなり苦戦した中で特に募集開始後に総おどり中止が発表されたことで、お客様が半分減ったとか、3割から5割程キャンセルになったツアーがあった。総おどりイコール阿波おどりと考えている県外の観光客が多いと改めて実感した。旅行会社からすると、減った分のチケットは自社の販促費で買い取ったり、赤字が出ているところもある。来年の広報にはいろいろ反映していかないと旅行会社のツアー自体が減ってくるのではないか。そのあたりも含めて対処していただきたい。

【事務局】

ツアーの話については9月初旬に開催された実行委員会の中でも、そろそろ来年のツアーの造成に入ると聞いている。できる限り早く阿波おどりの開催について示してほしいと要望を伺っている。できるだけ早く来年の状況がどうなるのかを発信できる分は情報発信していきたいと考えている。

3 その他

【G 委員】

にわか連について、例年は盛り上げ隊がいて非常に踊りやすく盛り上がっていると聞いて参加したが、聞いていたほどではなかったという意見も聞いている。そういった部分もマイナスだったのではないか。

最近の観光形態は見る観光から体験型に変わってきている。一生懸命踊りを練習し

完成させてすばらしい踊りを見せるのも一つ、もう一つは下手なおどりで踊りたい欲求をどう満たしていくのが、これまでの阿波おどりに欠けているのではないかと思う。来年度の開催については、見る阿波おどり、踊る阿波おどりを分けて、踊りたいという欲求をどう満たしていくのかを考えないといけない。昨今の事情を捕まえながら、踊る場をどこでどう提供するのかを考えていかないと、チケットの売り上げも大切だが、街が賑わって初めての阿波おどりだと思う。来年どこで企画を考えていくかわからないが、踊るという場をいかに演出していくのか。また駅前の総合案内所で4日間いたが、日本人の観光客も、外国の観光客もどこに行ったら踊れるかと言う質問も多くあったので、来ていただいた観光客に踊っていただき、楽しんでいただけて帰っていただく演出を本格的に考えていかないといけない時期でないかと思う。

以前は企業連と称して会社が慰安旅行のような形で、消費をしていただいていたが、そういう方々が減ったような気がしている。下手な踊りを排除してしまう方向に今までは来てしまっていたと思うので、今後は阿波おどりビギナーにも楽しんでいただくような場を設けていただいたら、阿波おどりって楽しかったねという雰囲気になると思うので、そのあたりも踏まえて考えていただきたい。

【事務局】

去年まで盛り上げ隊があったのは元町のわか連で、市役所前あわぎんふれあい広場と、元町演舞場の2カ所でのわか連を行っているが、元町はかなり人気で1,000人を越えるくらい人が参加している。当日は事務局の職員が現場に入っていたが、盛り上げ方が足りなかったと反省するところである。来年に向けて、意見いただいた様な体験型観光をどのように行っていくのかを含めて検討していきたい。

【D 委員】

踊りたい人について、2部の枠敷の時間を利用してわか連を募集し、踊ってもらうのはどうか。各演舞場で時間を決めわか連を集めれば県外の観光客やその家族も参加して、チケットも買ってもらえるかもしれない。音はCDでも良いと思うので検討いただきたい。

【事務局】

わか連は元町演舞場と市役所前あわぎんふれあい広場、どちらも無料演舞場に踊りこんでいるので、コースについても検討する余地がある。

【D 委員】

2部はすごく空いているので、入り込む時間帯はできる。有料演舞場で踊りたい人を募集すればたくさん参加すると思うので、空いている時間を埋められるのではないかと。

【B 委員】

今の意見は演舞場に踊り込む連の数が少ないということなのか。

【D 委員】

今年は2部が午後10時前ぐらいから枠敷が空いていた。

【B 委員】

空いているのは観客席ではないのか。

【D 委員】

観客席ではなく、踊り込む連のことである。

【B 委員】

今年、ベテランの連が栈敷で踊れなかったとかという話を聞いているので、そのあたりの連携も上手くやっていただかないと、栈敷の観客席だけでなく踊り込む連の数も問題になるのではないかと。

【D 委員】

にわか連を1連だけでも作って、有料演舞場の2部に踊ってもらったら必ず宿泊してもらえと思うので、そのようなツアーを考えれば良いと思う。

【事務局】

今回新たな体制で初めての運営であり、栈敷への連の踊り込みの運営のところの部分で不慣れな部分もあった。踊り込む連の間隔が空いた演舞場の報告も受けている。これは真摯に受け止めて、踊り手の皆様もしっかりと踊り込んでいただき、見る側も喜んでいただけるような運営を進めていきたいと考えている。

【B 委員】

阿波おどりととは、栈敷で見る踊りもあれば、栈敷に踊り込んで行く踊りもあれば、歓楽街で踊っている踊りを見たり、栈敷に漏れた連が街の外れで円を作って踊っていたら観光客が踊り込んで来たと言っていたり、そのような踊りも含めて阿波おどりだというPRがあまりにもできていなかったと思う。

各演舞場で4連ずつ最後に踊った今年の演出は相当見応えがあり、それぞれの連の特色もはっきり見ることができるいい演出だと思う。去年までも有名連が2連は必ず張り付いて踊っており、最後に観客は踊り場に降りて踊りながら出て行ってもらうことも同じことであり、新しいものではない。

各演舞場を見て回っていたところ、藍場浜演舞場では入口がわからず観光客が困っていたり、チケットのもぎりの場所がわかりにくかったり大混乱をきたし、暑い中で大変な目に合われた観光客をたくさん見かけた。プラスマイナスだけでなく温かく迎える気持ちも忘れない様をお願いしたい。

【事務局】

栈敷の運営をどうすればより良くなるのか、観客の皆様楽しんでいただけるのか、委員皆様から貴重な意見をいただいていることは強く認識している。

事務局としては、4月26日に実行委員会を立ち上げ、その前日に運営協議会という皆様に集まりいただいて、そこから、この夏の阿波おどりがスタートとなった。5月21日に栈敷を取得してから、2ヶ月半しか準備期間がなかった中、B委員からも急ぎすぎたのではないかと意見がありましたが、まさにその通りであった。実行委員会、事務

局、全体的で限られた中で必死に取り組んできた。そういった思いで阿波おどりを途切れさせたらいけないなということで、本当に開催できるのかというところまで追い詰められた状況であったことは間違いない。皆様から意見も頂戴して、協力もいただいて職員一同、実行委員会一丸となって、色々と課題が多く露出して浮き彫りになったところではあるが、平成最後の阿波おどりをしっかりと開催できた。来年に向けての繋ぎはできたと考えている。阿波おどりの演出や栈敷の運営などまだまだ未熟な点もある。そういったところを踏まえて、より良い阿波おどりをやっていきたい。B委員からも意見をいただいたが、振興協会も県協会も保存協会も皆気持ちは一緒だが、結果的に良くなかった、徳島のためになってなかったことは真摯に受け止めるところである。阿波おどりを愛する気持ちは皆一緒であり、徳島市、県民にとって阿波おどりは宝である。そういった阿波おどりを未来にしっかりと繋げていかなければならないという気持ち誰しもが持っている。

本日いただいた貴重な意見は、明日から立ち上げる有識者会議に伝えた上で検討を行う。それで終わりではなく10月中下旬の決算を出す実行委員会に合わせて、運営協議会を開催するので、収支についても意見を頂戴したい。

来年の新しい元号の下で開かれる阿波おどりにふさわしい踊りになるよう取り組んでいきたいので、委員の皆様においても引き続き協力をお願いしたい。

【H委員】

徳島新聞社は、なぜこの場にはいないのか。市長がテレビ番組に出て、徳島新聞と市長が懐に金を入れているという話が出ていたが、15日に市長は番組に出るべきでなかったと思う。実行委員会には米田社長が出ているのは聞いているが、去年までは町内会には実行委員として働いており、その時は徳島新聞社も社員が必死になってやられていたが、徳島新聞社は今日何をしているんだと言いたい。

来年、こんな状態で阿波おどりをやっていけるのかどうか。きれい事ばかり言っていたのでは、有識者会議は必要ないと思う。失礼な言い方だが弁護士に話を聞いてどうかなるのか。それよりは、実際動いていた徳島新聞社と今回市役所の方々でもっと蜜に話をした方がよりいいものができる。気持ちでは協力したいが、もっとクリアにする部分があると思うので、そのあたりを考えていただきたい。

【事務局】

今の話を踏まえて、徳島新聞社とも話し合いをしたいと思っているので、今後、より良い阿波おどりに向けて、取り組んでいきたいと考えている。

【E委員】

シャトルバスの運営方法についても、考えていただきたい。12日に至っては今年も寺島公園から文化センターを越えて約1,000人並んでいた。市立体育館の方は踏切を越えてポッポ街の入口を超えて角まで並んでいたのが現状である。何かを対策打たなければ、雑踏事故が起こる可能性がある。15年間何もなかったということだが安全

が第一だと思う。この件も6月頃に一度提案したが今年は時間がないとのことだったので、これからまだ11カ月あるので、対策を考えていただきたい。

【事務局】

大人数の列が並ぶ箇所については変えていかなければならないと認識しており、これから来年に向けて協議していきたい。

【会長】

以上を持って第3回阿波おどり運営協議会を終了する。